

平成 30 年度 第 3 回 大阪府立春日丘高等学校 学校運営協議会（定時制の部）議事録

平成 31 年 2 月 25 日（月）19：00～

場所：ウィステリアホール

協議会委員 中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）、中鹿 彰 委員（追手門学院大学教授）
片岡 誠 委員（本校後援会長）、長田 佳久 委員（本校卒業生）
新居 真理 委員（保護者・本校振興会副会長）、久保 博 委員（茨木市立西中学校長）
事務局 平岡 香子（准校長）、島田 一（教頭）、竹内 秀行（首席）、浅原 幸三（主査）
江菅 純一、中村 充希、小谷 貴昌（以上、教員）

1. 准校長挨拶
2. 授業アンケート
3. 学校教育自己診断の結果について
4. 平成 30 年度学校評価（案）について
5. 平成 31 年度学校経営計画（案）について
6. 学校運営協議員からの提言
7. 全日制部会方針（平成 31 年度学校経営計画（案））について
8. 質疑応答
9. その他

1. 准校長挨拶

2. 授業アンケート

7 月、12 月に実施 満足度の増減 27 年から変わらず。30 年度の 3.65 は、高い数値と認識。

3. 学校教育自己診断 12 月実施 (<http://www.osaka-c.ed.jp/kasugaoka/tei/hyoka/hyoka.html>)

分析概要

教員の授業の工夫や改善の肯定率に対して生徒・保護者の授業が分かりやすい肯定率が低い。実際に管理職として授業見学をしているが工夫をしている教員が多い。講義形式が減り、アクティブラーニングの授業が増えている一方、そういった授業に参加することが苦手な生徒もいる。

1 月の教員研修で分析を提示して、教科を越えて意見交換と改善に向けて話し合った。

4. 平成 30 年度学校評価案

評価案について承認

5. 平成 31 年度学校経営計画

中期的目標を承認（30 年度自己評価踏まえ）

6. 学校運営協議会委員より提言

○「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取りめる環境にある」が前年度よりもマイナスとなっているが。

⇒ 今年度学校経営改善チームを編成し対策を考えた。解決策には至らなかったが、チームで検討、方向性を示すことができた。今後、経営改善チームでの出てきた問題点の解決に向けて、今後運営委員会・職員会議で今後検討する。

○生徒へはこれがんばりなさいと言ったほうが、結果的に生徒も頑張れる。生徒会活動・部活動の数値が低くなったが、授業以外の活動においても生徒が頑張れたら、仕事でいやなことがあっても、みんなで励ましあって、卒業できた経験ある。留年してでも何とか卒業してほしい

○学校教育自己診断 保護者回収率 H28 0.25% H30 16.8% 回収率が上がったことがよかった。生徒・保護者のアンケートの回答は一面的な場合もある。数字にあまり固執しない方がよい。また、「どちらでもない」の項目がないので検討できればしてほしい。

○年々生徒・教員減少しているが、入学者が何とか増えてほしい。公共の図書館に春日丘高校定時制課程の生徒募集の掲示があり、教員は努力しておられる。定時制高校が何とか存続してほしい。

7. 平成 31 年度 全日制の学校経営計画及び学校評価

春日丘は全日制と定時制との関係が良好である。定時制の教員が、授業を見学に行っている。全日制に非常勤講師として、勤務している教員もいる。

8. 質疑応答

○学校教育自己診断 保護者にフィードバックはないのか？

⇒ 結果はHPでオープンにしている。

○学校教育自己診断 生徒にフィードバックはないのか？

⇒ 検討する。(春休みの過ごし方のプリントで紹介した。)

○アンケート結果の分析もオープン(共有)にしなければ、単に数字だけで、次年度につながらないのでは 可能であれば取り組んでほしい。 ⇒ 対応する

○別紙の学校経営計画における数値の 3 年間の推移を 31 年度の学校経営計画及び学校評価の数値目標をいれたらよりわかりやすいのではないか。

⇒ 次年度の学校運営協議会から対応する。

○定時制の取り組み等が、中学校の教員に正しく伝わっているか？

⇒ 教員について、年 2 回中高連絡会開催するなど、伝える機会をできるだけ設けている。

准校長よりあいさつ